

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	青少年対策事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	青少年の健全育成を図るための事業		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり
	政策	やさしさと思いやりを育み、楽しく学べるまちづくり
	施策	青少年の健全育成と社会参加
関連する個別計画等		根拠条例等

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	青少年育成推進員の活動支援、並びに青少年育成団体と地区で実施する地区美化運動への社会参加活動を通じて子どもたちに自立と社会性を習得させ、心豊かな青少年の健全育成を図る。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成推進員理事会開催</li> <li>青少年社会参加活動の支援、街頭キャンペーンの実施</li> <li>青少年教育研修会の開催</li> </ul>
事業の対象	小学生以上の市民及び青少年育成団体

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財 源 内 訳	A 事業費 (千円)	307	318	318
	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	307	318	318
B 担当職員数(職員E) (人)	0.22	0.22	0.22	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	1,509	1,477	1,446	
D 総事業費(A+C) (千円)	1,816	1,795	1,764	
主な事業費用の説明	・青少年育成推進員への報酬、立志式記念品・社会参加活動等消耗品購入、教育研修会関連経費			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 青少年育成研修会開催数(回)	青少年育成研修会開催回数	1	1	1
	2 社会参加活動参加団体数(団体)	青少年社会参加活動(市内全域地区別清掃活動)参加育成会数	66	79	0
	3 有害図書类等立入調査回数(回)	有害図書类等自動販売機及びコンビニ店への立入調査	1	1	1
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	毎年、青少年育成団体の関係者を対象に、青少年の健全育成の推進を図ることを目的に実施し、指導者の質の向上を図っている。			
	2	地域の美化活動に参加し、協働と社会参加を促し地域の一員としての責任と役割を自覚することを目的に実施。特に実施日や回数は指定していない。市内には93の育成会がある。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。(新府城跡清掃ボランティア活動)			
	3	市内にある有害図書类等自動販売機は1台のみとなっている。また、コンビニエンスストアに抜き打ちで立ち入り、成人向け雑誌が一般雑誌と区別されているか、帯がついているかなどを調査している。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値			
			30年度	元年度	2年度	
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	青少年育成研修会参加者数(人)	研修会への参加人数	54	78	22
	2	社会参加活動参加者数(人)	青少年社会参加活動(市内全域地区別清掃活動)参加人数	1,776	2,479	0
	3	有害図書類等調査立入店舗数(箇所)	販売機数・立入店舗数	27	28	27
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない				
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	研修内容もその時勢に合わせたものになっているが、内容によって増減のばらつきがある。				
	2	各団体によって差があり回数も異なっており、毎年、参加者数にばらつきがある。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。(新府城跡清掃ボランティア活動)				
	3	市内のコンビニエンスストアにおいては、成人向け雑誌はラックが区別されており、開封して中身が見えないよう帯がしてある状態で販売されている。				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)			
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへの立ち入り調査、有害図書撲滅への街頭キャンペーンは継続し、青少年の健全育成に努めていく。また、スマホ・パソコンからの有害サイトへのアクセスの危険性と、はまってしまった場合の対処法などを専門家から学ぶ講演会の機会を市内小学校の児童生徒と保護者に提供する。</li> <li>例年地区で実施している清掃活動等については、社会参加活動の一環としてはもとより、地域の歴史・文化等について学ぶといった学習する要素も取り入れるなど、青少年育成と郷土愛を育む一体とした事業と位置づけ、武田の里文化振興協会への委託について検討する。</li> <li>研修については、青少年を取り巻く環境に応じた話題性があり、子どもと親が一緒になって考え学ぶようなテーマを選定する。</li> <li>引き続き、不特定の方が多く参加するイベント等については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し実施を検討していく。</li> </ul>			
過去の改善経過	改善の経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度の事務事業外部評価において各地区育成会活動への補助金(5万円限度、1/2補助)は廃止</li> <li>平成27年度より、青少年育成葦崎市民会議を15%削減(30万円→25.5万円)</li> </ul>		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
		外部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input checked="" type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
	改善案	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへの立ち入り調査、有害図書撲滅への街頭キャンペーンは継続し、青少年の健全育成に努めていく。</li> <li>美化活動を地域から市内の史跡(新府城跡を検討)の美化活動に変え、文化財学芸員の指導のもと地域に残る文化財に誇りを持ち、その保護に対する意識を高めることを目的に実施を予定。清掃活動後に新府城にまつわる歴史や逸話などを文化財担当より簡単な講話を行う等、清掃活動だけではなく郷土の文化歴史に触れる機会を増やすよう検討中。</li> </ul>		
課長所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年が地域の大人と関わる機会や市内の歴史文化に触れる機会を提供し、社会の一員としての自覚と郷土愛を育む事業として、感染防止対策を徹底するなかで継続実施していく。</li> <li>また、(一財)武田の里文化振興協会の地域芸術文化振興事業へ位置づけるなど、地域の文化に就学期から触れ、郷土愛を育む取組となるよう生涯学習担当と連携した実施方法を検討していく。</li> <li>青少年でほぼ保有率が100%近いといわれるスマートフォンによる有害サイトへのアクセスの危険性やゲーム障害による日常生活への悪影響を周知し、家庭、地域と学校が一体となって青少年の健全育成を図っていく。</li> </ul>			